

公表	児童発達支援事業所における自己評価総括表
----	----------------------

○事業所名	ハッピーキッズ			
○保護者評価実施期間	R7年11月15日		～	R7年12月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	R7年11月15日		～	R7年12月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	(適切な支援の提供) 午前の部、午後の部にわかれており、個別療育・集団療育ともに提供しており、利用者様の個々のニーズに対応できている。	保護者のニーズや児童本人の発達段階、集団活動への参加状況によって、療育形態を個別または小集団と選べるようにしている。	本人の発達段階、集団活動への参加状況にあわせて、個別・集団、どちらが適しているか、積極的にご提案していき、本人のよりよい成長につながるようにしたい。
2	(適切な支援の提供) プログラムが固定化しないように工夫している。	児発管の助言のもと、保育士等が活動内容の立案を行い、支援者間で検討している。児童が飽きないよう、工夫をこらしながら療育的な効果も存分に得られるものを考えている。	児童が楽しいのは大前提として、療育的効果が得られるようにひとつの活動に対して、レベルの調整ができるように工夫し、活動毎のねらいがしっかりと習得できるようにしたい。
3	(環境・体制整備) 活動スペースが確保されている。	・机上遊びと運動遊びで活動スペースを構造化している。 ・運動スペースについては、遊具を置いても児童が十分に体を動かして遊べるように配置を工夫している。	・スペースの確保だけではなく、利用児童の年齢層に応じた玩具、遊具の提供を行い、支援を利用児童にあわせて最適化していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や幼稚園など、事業所外の児童と触れ合う機会を設けていない。	個別または小集団の療育で短時間の預かり時間のため、実施することが困難。	近所の公園や地域の児童センターなどへの戸外活動を通して地域のこどもとの交流をはかる。
2	ペアレントトレーニングや家族支援など実践的な支援が不十分。	個別対応が必要なケースが多く、全体として取り組むことが困難であった。 保護者と情報共有する手段や機会も限られているため、きょうだい児の支援にまで至っていない。	・面談だけではなく、実際のお子様のようす、支援者の声掛けをご覧いただく療育参観の機会を定期的に設ける。 ・きょうだい児の支援については、家庭訪問や事業所内での相談援助ができるよう実施方法を検討する。
3	地域に開かれた運営ができていない。	・現在の職員体制やサービス提供時間では取り組みは困難である。 ・児童のプライバシー保護の観点から実施のイメージが持てない。	・事業所に地域住民を招くような取り組みは現実的ではないが、SNSなどを活用して、有益な情報の発信に努めたい。